



For 明日 (tomorrow)

校長 赤松 弘一

中庭の北、北校舎の前にブロックを積み重ねた花壇があります。この花壇の由来をお話しします。花壇は波形ブロックをピラミッド型に4段に積み重ねていて、中段に金属製の銘板があります。そこには「寄贈 西田健太郎君 1997年3月14日」と記されています。西田健太郎君は魚住東中学校の15回生でした。彼が3年生の時、平成8年（1996年）の9月25日、体育大会の綱引き競技に参加した後、急性心不全によって亡くなりました。懸命の救急蘇生を保健体育の先生が行い、救急搬送しましたが、彼の命は戻りませんでした。体育大会は午後からは打ち切れ、当時の校長先生がグラウンドに集合した全校生徒や観覧の保護者を前に、言葉を絞り出すようにして西田君が亡くなったことを伝えられました。誰もが信じられない出来事に呆然として言葉もありませんでした。その後、仲間を失った深い悲しみがみんなを包みました。



私はこの年に本校に転勤で赴任して3年生の他のクラスの担任をしていました。直接西田君に授業をしていませんでしたが、彼のことは覚えています。後日、追悼式が体育館で営まれ、全校生徒が参加して西田君の冥福を祈りました。

中庭の花壇は西田君がこの学校で過ごしたことを忘れないでほしいという思いで、ご両親が学校に寄贈されました。私は縁あって再び魚住東中学校に着任しました。今、魚住東中で西田君を知っているのは、校長の私と特別支援教育指導員の細田先生だけになりました。この花壇に再び花を植えて、夢半ばに旅立った彼を忍ぶとともに、かけがえのない命の大切さ、今を一生懸命に生きて自分を大切にするの意味を皆さんに伝えておきたいと思います。人の命には限りがあって、人生はいつまで続くのか、終わりがいつ来るのかわかりません。私たちにできることは、今日1日をしっかり生き切ることです。そのようにして日々を積み重ねていく他に限られた命を悔いなく生きる方法はないと思います。光陰矢の如し」今の1時間を大切にできなければ、1日を充実させることはできません。生きていくことは苦しいことも多いですが、明日を信じて、明日のために今日を大切に生きて行きましょう。